島の暮らしに風を通す

離島の勝手口

1 島の人の魅力的な暮らしに溢れた空間の先に瀬戸内海が広がります

2 多様な待ち方を受け入れるように、それぞれの空間が広がります

3 心地よい距離感の勝手口空間にいるだけで島のいろいろな情報が飛び込んできます

4 外の活動を惹き込む待合所は島の情報網を担います

コンセプト

0. 生活に流れを生み、暮らしのあれこれに囲まれた勝手口空間

フェリーから島に降りると、船の解体の音が聞こえてくる、入口に腰を掛けて煙草を吸う人がいる。

そんな場所にはかしこまった玄関よりもどこか島の生活感に溢れた勝手口のような空間が、旅人は離島にしかない魅力を感じ、島の人にとっても使い勝手のいい居場所になるのではないでしょうか。

家に勝手口があると暮らしがぐっと便利になるように、「離島の勝手口」の扉を開けると、島の暮らしにあふれた、島の人も旅人も惹き込まれるような待合所を設計します。

潮待ち・風待ちで栄えた昭和の勝手口空間スケッチ

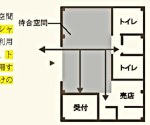
勝手口を開けると土間が広がり、竈が置かれ、ご飯を準備する人が座る板の間・上がり框が続く。

島と待合所の課題

1-1. ただ「通り過ぎる」だけの待合所

■待合所がただ通り過ぎるだけの空間になっています

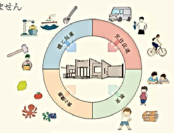
今の広くまとまった待合空間は、毎日利用されるポテンシャルを持ちながら、実際には利用者が「待つ」というよりも、トイレ・売店・受付などを利用するために「通りすぎる」だけの場所になっています。



1-2. 広がりにくい島の情報網

■島内の活動が島の人たちに広がっていません

大崎上島でも少子高齢化は大きな課題であり、さらに離島であるがゆえに様々な問題を抱えています。それらを解決する取り組みが盛んに行われているのですが、島の内にも外にも上手く情報が伝わっていないようです。通勤通学に毎日利用される待合所こそ、島の情報を島内外へ広げる新しい場所になるのではないかと考えました。



大崎上島の4つの取り組み

提案

3. 「通る」だけで島のあれこれに手が届くような待合所

■手を伸ばしたくなる奥行きのある待合所

通路よりも広くて、通常の待合空間よりも狭い空間が、島の活動・自然を惹き込み、利用者は通るだけで島のあれこれに手を伸ばしたくなるような「勝手口空間」を設計します。

■提案ダイアグラム

STEP 001

15m × 15m の正方形の敷地に海から山へ奥行きと高さのある空間をつくります

STEP 002

001でできた「通路よりも広く、待合室よりも狭い空間」の両側に必要諸室を配置していきます

STEP 003

両側の諸室から、島の人・モノ・文化が溢れ出し、ただ通るだけで島のあれこれに手を伸ばしたくなる空間になります

展望

4. 島を生かし、島に生かされる「離島の勝手口」

■情報が集まった「勝手口空間」が暮らしを豊かにする

■島の環境に溶け込む「勝手口」

デザイン

5. 島の課題から生まれた5つのデザイン

島の人も島の外の人も待合所に入ると、島の情報に手を伸ばしたくなる「勝手口空間」とするために5つのデザインを提案します。離島ならではの課題や魅力、チラシや掲示板などの動かない情報も人の活動と一緒に点在させることで幅広い情報が手に届くようになります。

島外の通院が億劫な高齢の方が受付の方とほっと話して島の新しい情報交換の場所となります

いろんな世代の方が集えるわちゃわちゃ空間で、年齢に縛られない情報を知ることが出来ます

島でとれた食材や売店の商品が手に届くことで、旬の食材を知ることができます

旅人がすっと入って、海を見ながら、パンフレットなどで島の情報を見ることが出来ます

カフェ等の小空間が少ないですが、ここではちょっとこもって仲間同士でお話できます

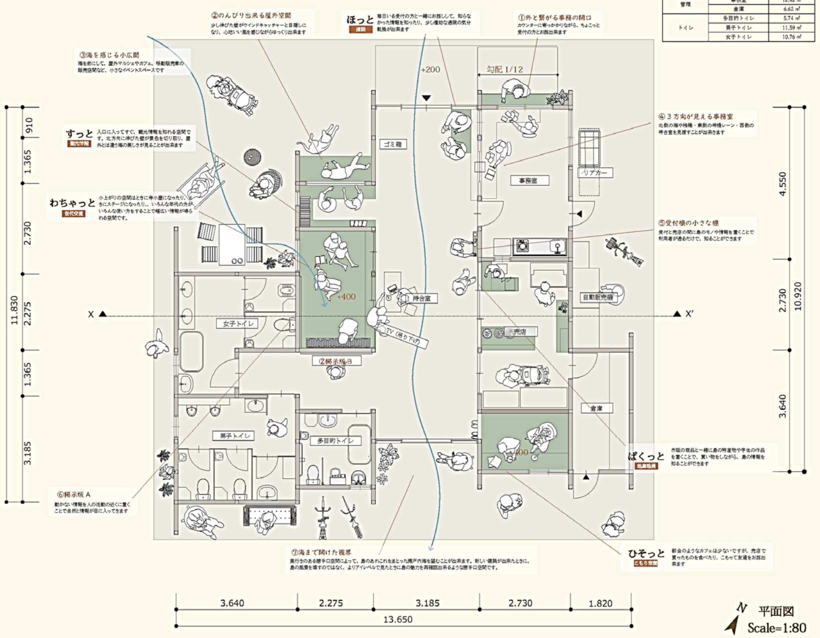
平面計画

6. 通るだけで島のあれこれに触れられる奥行きをもった「勝手口空間」

今までのようにただトイレに行く、売店に行く、受付をする、、ただそれだけでも「島のあれこれ」に手が届いてしまいそうな「勝手口空間」で島の魅力を再発見します。奥行きを持った待合所の両側には島のあれこれが点在し、偶然見えた活動や漏れ出したものに手を伸ばすことで、新しい島の魅力や情報を得ることができるのです。

面積表

公共	待合室	54.86 ㎡
	売店	12.42 ㎡
管理	事務室	12.42 ㎡
	倉庫	6.62 ㎡
トイレ	多目的トイレ	5.74 ㎡
	男子トイレ	11.59 ㎡
	女子トイレ	10.76 ㎡

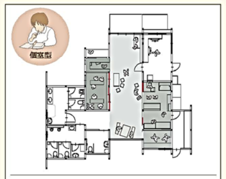


平面図 Scale=1:80

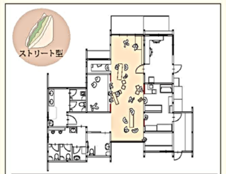
プランの可変性

7. 幅広い活動を受け入れる勝手口

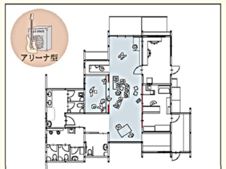
奥行きのある勝手口空間は簡単な建具と小上がりで空間を区切ることで、フェリーを待つ使い方以外にも、島の人々の活動に合わせて空間の使い方を変えられるようにしています。幅広い島の活動を受け入れられる「勝手口空間」によって利用者はより幅広い情報に出会うことが出来るのです。



寺小屋や PC 教室等、ちょっぴり集中したい活動に向いています。



出張カフェやマルシェ、バザーを行うのに向いています。



音楽会や集会といった舞台と客席の関係をつくるような活動に向いています。

計画

8. ローコストで海辺に適した「勝手口空間」をつくる

瀬戸内海の風の気持ちよさや島ならではの景色を活かしつつ、塩害や海風などの海辺特有の敷地に配慮した計画をします。

形態計画

■奥行きを生む建築形態

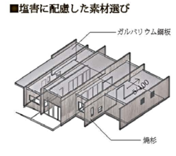
■外壁面から壁を出すことによって、15 m × 15 m の敷地スペースの中で、建物に奥行き感が生まれ、さらに北西からのウインドキャッチャーの効果も果たします

■日中の海風を勝手口空間に取り入れ、南北方向に風が抜けることによって、海辺の湿気が建物の中にこもらないようになります。

脱炭素化

素材計画

■塩害に配慮した素材選び



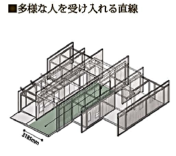
■塩害対策として、屋根材にガルバリウム鋼板、壁材に焼杉を用います。

■壁材に用いる焼杉は塩害に強いうえ、生産時の二酸化炭素発生量が少なく、部分補修が可能、解体の際も産業廃棄物にならないというメリットがあります。

メンテナンス　ライフサイクルコスト

動線計画

■多様な人を受け入れる直線



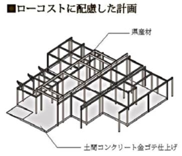
■入口から南北方向にまっすぐ 3185㎜幅の勝手口空間を通すことによって誰でも空間が把握しやすく、車いすの方もスムーズに多様な情報にアクセスできます。

■待合室を分節し、高さや大きさの異なる待合空間を複数設けることで1人で待ちたい人もみんなで待ちたい人も気持ちよく待つことができます。

ユニバーサルデザイン

コスト計画

■ローコストに配慮した計画



■柱梁は、県産材一般品を用いることでコストを削減します。

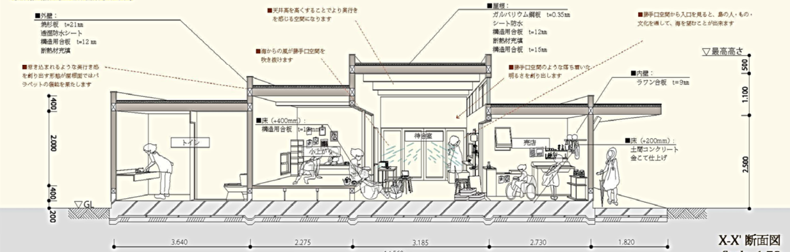
■床を基礎コンクリート直金ゴテ押さえとしてコストを削減します。3640㎜幅の一続きの土間なので、清掃、維持管理が容易になります。

ローコスト　メンテナンス

断面計画

9. ただ「通る」だけでも島のあれこれに触れられる奥行きと間口

通路よりも広く、待合空間よりも狭い空間に高さを持たせることでさらに奥行きを生みだし、人・もの・ことが程よい距離感で混ざり合う待合が奥へと続いていきます。島のリアルな生活感に囲まれた空間を通ることで、利用者は島の様々な情報に触れることが出来るのです。



X-X' 断面図 Scale=1:70